

2002年4月1日

平成14年度新入社員を迎えて

半林 亨

皆さん、入社おめでとう。

本日、ここに31名の皆さんを、ニチメン株式会社の新しい戦力として、お迎えすることは大きな喜びであり、会社を代表して心から歓迎致します。

ニチメンの新しい仲間であり、将来のニチメンを担う皆さんをお迎えするにあたり、私から三つのこととお話したいと思います。

先ず最初に、我々を取り巻く環境、その中で、ニチメンはどのような方向に向かっているかについてお話します。

21世紀最初の年であった昨年9月に起きた多発テロ事件は、世界的緊張関係を引き起こしたばかりでなく、既に、世界的レベルで、下降局面にあった経済の面でも、更に深刻な打撃を与えたことは疑う余地がありません。

今年に入り、米国における景気回復の兆しが見え始めては

おりますが、日本においては、引き続き金融問題を根底とする信用リスクの懸念が払拭されておらず、株価の早期回復も、期待出来ない状況です。

こうした厳しい環境の下、我々商社は、その有り姿を変革して行く途上にあります。

現在の我々商社を取り巻く環境について、キーワードをいくつか申し上げますと、「日本経済の失速によるパイの縮小」、「デフレスパイラル」、「流通の中間排除の動き」、「グローバリゼーションの進展」、「規制緩和」、「インターネット普及による情報格差の縮小」ということになります。これらにより、競争の激化、シェア低下、マージン減少などに直面しているわけですが、我々は、川上から川下に至る商流の中で、サプライヤー、ユーザーの多様なニーズに応え、新たな付加価値を創造して行く限り、競争力を維持できるものと考えております。

この為には、商社として今まで培ってきた「総合化機能」を可能な限り維持しながら、事業提携・アライアンス・事業の

買収・売却などを駆使し、強い分野は徹底的にその収益力の強化を図り、弱い分野からは撤退を図る「選択と集中」を積極的に行う必要があります。

得意な分野で勝負し、利益を極大化する商社に向け、皆さんと一緒に改革・変革を推進して、この厳しい環境の中でも、自力で生き残り、勝ち抜いて行こうではありませんか。

二つ目は、皆さんに“もののふ（武士）の志をもった商社マン（ウーマン）”を目指して戴きたいことでもあります。

いうまでもなく、会社は福祉団体ではありません。社会に貢献する企業として存在するためにも、利益を稼ぎ出さねばなりません。

利益を出し、配当をし、株価を上げ、株主に報いる義務があるのです。社員や、その家族の為にも、会社にとって一定の収益は必要不可欠です。しかし、儲けるためには、何をしても良いというわけではありません。

そこには、節度があり、当然社会人として守らなければならないルールがあります。これを踏みはずしてはなりません。例え、小さな事でも不正な行為は許されるものではありません。

ニチメン・マン（ウーマン）としての、高い倫理感と正義感、即ち“もののふ”の誇りを常にもって行動して下さい。

最後に、“後生^{こうせい}畏^{おそ}るべし”ということをお話しておきます。

この言葉は、論語の一節ですが、後生^{こうせい}とは、後輩、今日の皆さんそのものです。この場合の畏^{おそ}るべしとは、恐れるではなく、敬意を抱くべしとの意です。

即ち、師である孔子にとって、後輩（若者）は畏敬すべきである、そして将来に期待すべきであるということです。

冒頭でも申し上げたように、我々は会社を挙げて、旧^{ふる}いニチメンを新しいニチメンに創^{つく}り変えつつあります。

それには、旧い^{ふる}カラを破り、旧い^{ふる}勢力を乗り越える、新しい力、皆さんの力が必要なのです。

今日は、入社初日であり、皆さん一様に将来の夢を胸にそれなりの感動をもって迎えられたことでしょう。

どうか、この初心を忘れずに将来とんでもない大仕事をす
る、つまり大化けする、後生（後輩）を目指して下さい。

皆さんの、ご健闘を心から祈念し、歓迎の挨拶と致します。

以上